

【他の治療方法の有無及び内容、その治療における効果及び危険性の比較】

① リハビリ

【内容】 リハビリテーション専門医・リハビリテーション看護師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・視能訓練士・臨床心理士・義肢装具士・臨床工学技士・柔道整復師・ソーシャルワーカーなど多数の専門職の協業によって行われる病気や外傷が原因で心・身の機能と構造の障害と生活上の支障が生じたときに、個人とその人が生活する環境を対象に、多数専門職種が連携して問題の解決を支援する総合的アプローチ。

【効果および危険性】 危険性はほとんどなく、これまでの脳卒中後遺症の治療としては、まずは第一の治療方法である。脳卒中再生医療は単体で効果を発するものとは考えておらず、必ずリハビリが必要である。

② 経頭蓋磁気刺激（TMS : transcranial magnetic stimulation）治療

【内容】 磁気によって大脳を刺激して、脳の活動性を変化させる治療法

【効果および危険性】 危険性はほとんどなく、効果は認めるが個人差あり。

③ ボツリヌス療法（ボトックス注射）

【内容】 ボツリヌストキシンを筋肉に注射し、痙縮をやわらげる治療法。

【効果および危険性】 危険性はほとんどなく、脳卒中の後遺症である痙縮を緩和する。即時性はあるが、脳卒中後遺症の根本治療ではなく局所治療である。デメリットとしては持続性がないことがあげられる。

しかし痙縮の為リハビリが進まない場合はこの治療が必要である。